

PRODUCTION OF PHARMACEUTICALLY ACTIVE TEA

特許公報番号 JP2000023649 (A)

公報発行日 2000-01-25

発明者 BO RA

出願人 MATSUDAYA KK

分類:

一回期: A23L2/52; A23F3/14; A23L2/38; A61K36/00; A61K36/18; A23L2/52; A23F3/06; A23L2/58; A61K36/00; A61K36/18; (IPC1-7); A61K35/76; A23L2/52; A23F3/14; A23L2/55

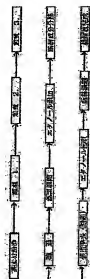
一取州:

出願番号 JP1990198898 19980714

優先権主張番号: JP1990198898 19980714

要約 JP 2000023649 (A)

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide easily drinkable Isatis tinctoria L. tea excellent in the decoction of active ingredients. SOLUTION: This method for producing a medicinally active tea comprises spraying and adhering the concentrated extract solution of a medicinally active ingredient-containing plant to the surfaces of tea materials comprising tea leaves or their substitutes and subsequently drying the tea materials. Therein, the process for producing the concentrated solution comprises a decoction concentration process for decocting the medicinally active ingredient-containing plant, filtering the obtained extract solution and subsequently concentrating the filtrate, and a decomposition concentration process for adding alcohol to the concentrated solution to decompose fat-soluble ingredients and subsequently again concentrating the solution. The tea leaf material includes the withered leaves of Isatis tinctoria L.



esp@cenet データベースから供給されたデータ — Worldwide

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号
特開2000-23649
(P2000-23649A)

(43)公開日 平成12年1月25日(2000.1.25)

(51)IntCl. ⁷	識別記号	F I	テマコード(参考)
A 2 3 L 2/52		A 2 3 L 2/00	F 4 B 0 1 7
A 2 3 F 3/14		A 2 3 F 3/14	4 B 0 2 7
A 2 3 L 2/38		A 2 3 L 2/38	C 4 C 0 8 8
// A 6 1 K 35/78		A 6 1 K 35/78	C
			Y
審査請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 3 頁)			

(21)出願番号 特願平10-198898

(22)出願日 平成10年7月14日(1998.7.14)

(71)出願人 398038683

有限会社松田屋
島根県大田市大森町ハ185

(72)発明者 房 兼

島根県松江市北田町93-12

(74)代理人 100081673

弁理士 河野 誠

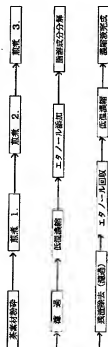
最終頁に続く

(54)【発明の名称】 薬効茶の製造方法

(57)【要約】

【課題】 飲み易く有効成分の煎出に優れた菰藍茶を提供する。

【解決手段】 茶葉又は茶葉代用素材からなる茶素材表面に薬効成分含有植物から抽出した濃縮液を噴霧して付着させた後乾燥せしめる薬効茶の製造方法であって、濃縮液の製造工程が、薬効成分含有植物を煎煮して得た抽出液を濾過したものを濃縮する煎煮濃縮行程と、該濃縮液にアルコールを加えて脂溶性成分を分解させた後に再濃縮させる分解濃縮工程とからなる。また、茶素材として菰藍の葉を萎凋させたものを用いることもできる。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 茶葉又は茶葉代用素材からなる茶素材表面に薬効成分含有植物から抽出した濃縮液を噴霧して付着させた後乾燥せしめる薬効茶の製造方法。

【請求項 2】 濃縮液の製造工程が、薬効成分含有植物を煎煮して得た抽出液を濾過したものを濃縮する煎煮濃縮工程と、該濃縮液にアルコールを加えて脂溶性成分を分解させた後に再濃縮させる分解濃縮工程とからなる請求項 1 の薬効茶の製造方法。

【請求項 3】 薬効成分含有植物が松藍である請求項 1 又は 2 の薬効茶の製造方法。

【請求項 4】 茶素材として松藍の葉を萎凋させたものを用いる請求項 1 又は 2 の薬効茶の製造方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 この発明は例えば松藍(スーラン)茶、枸杞(くこ)茶、杜仲(とちゅう)茶、銀杏(いちよう)茶等のようにその煎出液がひとりの健康増進や保持又は伝統的に特定の傷病治療に薬理的効果のある植物を用いた煎出液(茶)を指称する薬効茶の製造方法に関するものである。

【0002】

【従来の技術及び発明が解決しようとする課題】 薬効茶とは一般に健康茶又は漢方薬として飲用され、上記のように薬効成分を含有する植物等の煎出液の意味で使用するが、このうち例えば松藍(Isatis tinctoria L.)は、中国産十字花科大青属植物であり、漢方薬と藍染めに利用されている。漢方では、松藍の地上部(葉名:大青葉)と地下部(葉名:板藍根)両方を利用して、風邪、流行性耳下腺炎、脳膜炎及び肝炎などの治療に使われている。中国の一部の地域では、松藍の煎液をスープに入れて食べ、それにより体の抵抗力を向上させ、インフルエンザの予防に役立っている。これらのことにより、松藍は人間の健康に良いだけでなく上記の病気の予防や治療薬又は健康増進薬として機能することが知られている。

【0003】 しかし、完熟松藍の生鮮植物は苦みがあり、乾燥した後でも渋く、匂いも強く食べ難いものである。特に松藍の根は、そのままで食べられない。これを飲み易い松藍茶にするためには、まず松藍の強い匂いを消すか緩和する必要がある。また一般にお茶は、お湯により茶葉の遊離物質を溶み出させて飲み物にするものであるが、この方法では茶葉内のアミノ酸やビタミン類の含有量のごく一部しか浸出できない。市販の各種の健康茶も茶葉の混合物を茶葉の代わりにしているという点で、有効成分や栄養成分の浸出率が限られている。

【0004】 この発明はこれらの課題を解決するために松藍の苦みを消して飲み易くすると共に、有効成分を十分に浸出せしめて健康増進や風邪その他の病気の治療用としても有用な松藍茶の製造方法を提供せんとするもの

である。

【0005】

【課題を解決するための手段】 上記課題を解決するための本発明の方法は、第 1 に茶葉又は茶葉代用素材からなる茶素材表面に薬効成分含有植物から抽出した濃縮液を噴霧して付着させた後乾燥せしめることを特徴としている。

【0006】 第 2 に濃縮液の製造工程が薬効成分含有植物を煎煮して得た抽出液を濾過したものを濃縮する煎煮濃縮工程と、該濃縮液にアルコールを加えて脂溶性成分を分解させた後に再濃縮させる分解濃縮工程とからなることを特徴としている。

【0007】 第 3 に薬効成分含有植物が松藍であることを特徴としている。

【0008】 第 4 に茶素材として松藍の葉を萎凋させたものを用いることを特徴としている。

【0009】

【発明の実施の形態】 本発明では既述のように予め薬効成分含有植物から抽出したエキスを、茶葉又は茶葉代用素材(例えば松藍の葉、枸杞、杜仲、銀杏、ドクダミ、熊笹、すず菜、大麦、ハトムギ等一般に茶の代用となり得る素材全般を指す)の表面にその製茶工程で噴霧して付着乾燥をさせるものであるが、これらの製造工程を実施例について説明する。

【0010】 <松藍エキスの抽出及び濃縮> (図 1 参照)

1. 煎煮抽出(煎煮濃縮)

乾燥した松藍(根、茎、葉のいずれか又はこれらを組み合わせたもの) 1 kg に重量比 10 倍の水を加えて一般的な中華薬の煎煮方法により弱火で十分に煎じ、濾過等によって残存屑を分離除去する。

【0011】 この例では 1 kg の松藍に対し 10 リットルの水を 4 リットル、3 リットル、3 リットルに分けて添加し且つ 3 回に分けて煎じる。十分に煎じて含有成分を浸出させた後、濾過して低温(例えば 60℃以下)で水分を蒸散させ全量の半分以上(例えば 40%前後)まで濃縮して煎煮濃縮液とする。

【0012】 2. アルコール分解及び濃縮(分解濃縮) 上記 1. によって得た濃縮液に対し純度 95%以上のエタノールを添加し、約 75%前後の濃度に希釈し、脂溶性成分を最大限に分解させた後、低温(例えば 60℃以下)で低温濃縮装置でアルコール(エタノール)を分離回収して濃度 70%前後の抽出液を得る。そしてそれを総量の約 25%前後まで蒸散させて濃縮して分解濃縮液とする。上記加工工程中、1. の 3 回に分けて行う水の添加の溶液比率と煎じる回数及び 2. の希釈比率と低温乾燥基準温度は、有効成分を最大限に抽出し、強い匂いを消すことができる上で重要である。

【0013】 <製茶及び濃縮液噴霧工程>

1. 萎凋

茶素材として茶葉その他の葉を用いるときは、生の状態のものを自然乾燥又は温風その他の加温による加温乾燥を行うことにより、葉類から一定の水分を除去して萎縮させ、次に述べる分解濃縮液の付着と内部への浸透が容易に行われる状態にする。

【0014】2. 分解濃縮液の噴霧

萎縮させた茶葉その他の葉類からなる茶素材を、内部への送風、加温、回転速度調整等が可能な噴射ノズル付きの噴射式回転鍋（図示しない）に収容し、回転鍋を回転させながら前述した分解濃縮液を茶素材に対して均一に噴霧して付着させる。この時茶素材1kgに対し分解濃縮液75ミリリットルの割合で噴霧し、回転鍋には例えば10kgの茶素材を投入した場合20～30r・p・mの回転速度で、温度60℃前後に加温しながら常圧で20～30分間継続的に噴霧する。

【0015】3. 乾燥

上記エキスを噴霧完了後回転する回転鍋内に60℃以下の温度で20～30分間温風を送り、茶素材を乾燥させる。次いで、回転鍋より茶素材を取り出し常圧で常温に近い（40℃前後）の雰囲気下の乾燥室で茶素材の含水率を概ね7%に下げるまで乾燥して二次乾燥を完了する。

【0016】4. 整形

二次乾燥終了後の茶素材は喫茶に際して成分の抽出が容易に行われるように、また商品価値を高めるように手揉み又は専用の機械（精揉機）により形を整える（整形）*

* 作業が行われる。上記実施例において噴霧時及び乾燥時の温度設定値、エキスを噴霧量、回転速度等は茶素材の種類や品質等により多少異なるが、これらの適切な設定はエキスの付着率や付着量、均一性、有効成分の保持等に大きい影響があるものと考えられる。また抗菌成分を含む藍藍エキスの均一な付着により、製茶後のカビの発生が防止される他、茶素材の有効成分の煎出も容易になる。また茶葉等の外観や香り等にも殆ど影響を与えることがない。

10 【0017】なお上記実施例は茶素材に対して藍藍のエキスをを用いたが、藍藍以外の例えば高麗（こうらい）人參、枸杞、杜仲、銀杏等のように一般に健康保持や増進効果又は薬理的効果のある植物エキスをを用いることも可能であり、一般に強い匂いや苦味等があり又は含有有効成分の煎出効率の低い植物に対して本発明方法は特に効果的である。

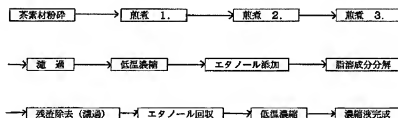
【0018】

【発明の効果】本発明は以上のように構成されることにより、藍藍の苦みや、渋み、匂い等を除去又は緩和することにより、従来飲用に適さなかった藍藍茶を飲み易くすると共に、有効成分を十分に煎出できる効果がある。またカビの発生もなく保存や取扱が容易であるという利点もある。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明方法の一部である藍藍エキスの抽出及び濃縮工程を示すブロック図である。

【図1】



フロントページの続き

Fターム(参考) 4B017 LC02 LC03 LG14 LG15 LP01
LP02 LP03 LP18
4B027 FB01 FC06 FK08
4C088 AA18 AB02 AB12 AB15 AB45
AB47 AB48 AB73 AB76 AB77
AC02 AC05 AC10 AC11 BA08
BA09 BA10 MA07 NA09 ZA15
ZA34 ZA75 ZB11 ZB33 ZC21